

令和4年度食育推進一校一実践 参考事例 掲載学校

	掲載学校	ページ
1	甲府市立貢川小学校	1～2
2	甲府市立池田小学校	3～4
3	甲府市立城南中学校	5～6
4	甲斐市立竜王中学校	7～8
5	昭和町立押原中学校	9～10
6	山梨市立加納岩小学校	11～12
7	甲州市立神金小学校	13～14
8	笛吹市立石和北小学校	15～18
9	市川三郷町立上野小学校	19～21
10	都留市立宝小学校	22～24
11	上野原市立秋山中学校	25～26

## 令和4年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	甲府市立 貢川小学校	校 長 名	伊東 勝彦
-------	------------	-------	-------

## 児童生徒の課題

<ul style="list-style-type: none"> <li>健康実態調査の結果によると、朝食を毎日食べると答えた児童の割合は、88.6%で、県平均の91.2%に比べると低い傾向にある。</li> <li>コロナ禍で3年間給食試食会も実施できず、保護者の給食や食への関心は低くなっている。</li> <li>給食を「好き」または「まあまあ好き」と答える児童が95%と多かった。一方で、給食を残さず食べていると答える児童は69%と低かった。給食の様子をみても、嫌いなものは極端に減らすなど、食に関する知識不足から心身の成長や健康を考えてバランスの良い食事をとろうという行動まで結びついていない。</li> </ul>
---

実 践 名	食べて味わう「生きた教材」としての給食 ～かしこく食べて、苦手なものにもチャレンジ～
目 標	学年の実態に合わせて、給食や食に関する興味関心を高めつつ、苦手なものも少しは食べようとする児童を増やす。
目標指標と数値	① 学級担任が食に関する話を週3日以上した割合 3割→5割以上 ② 苦手なものも少し食べようとしていると答える児童の割合 8割以上 ③ 親子で給食の話をする「話食の日」の実施 年1回
実施予定日 ・実施予定期間	① 年間 ②年に1回の強化週間(2学期中) ③ 年に1回(③1月の学校給食週間中に実施する予定)
対 象	全校児童並びに保護者
指導場面	給食の時間、学級活動、委員会活動
指 導 者	学級担任、給食主任、栄養教諭
具 体 的 な 内 容	
<p>○栄養教諭が毎日の給食のひとくちメモをクロームブックに配信し、学級担任がその資料をもとに話をし、子どもたちの食に対する興味関心を高めさせ、知識を深めさせる。</p> <p>○給食委員会による給食の放送や食べ物新聞・食べ物クイズの作成を通して、食べ物の働きや栄養について啓発活動を行う。</p> <p>○「苦手な食べ物もがんばって食べようカード」に取り組ませ、クラスみんなで励ましたり、褒めたりして、苦手な食べ物にチャレンジする姿勢を育てるよう指導する。</p> <p>○子どもがタブレットを家に持ち帰り、親子でその日の給食の話をする「話食」を実施する。家庭での食事の団欒の時の楽しい会話のきっかけづくりとなり、家庭の食への意識の高まりに繋がっていく。</p>	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートの結果から児童の意識の変容を見る。</li> <li>がんばりカードで一人一人の評価を行う。</li> <li>保護者に簡単な「話食」アンケートを行う。</li> </ul>

## 令和4年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	甲府市立 貢川小学校	校 長 名	伊東 勝彦
-------	------------	-------	-------

実 践 名	食べて味わう「生きた教材」としての給食 ～かしこく食べて、苦手なものにもチャレンジ～
目 標	学年の実態に合わせて、給食や食に関する興味関心を高めつつ、苦手なものも少しは食べようとする児童を増やす。
目標指標・数値	① 学級担任が食に関する話を週3日以上した割合 3割→5割以上 ② 苦手なものも少し食べようとしていると答える児童の割合 8割以上 ③ 親子で給食の話をする「話食の日」の実施 年1回
実践後の数値 (評価方法)	① 学級担任がひとくちメモを週3日以上読んだ割合 69.2% (3学期の平均) ② 苦手なものにチャレンジ週間中 よく食べたと答えた児童数の平均割合 84.5% ③ 「話食の日」の実施回数 年1回 (2月実施)
実施日 ・実施期間	① 1学期～3学期 (毎日) ② 11月16日～11月25日までの7日間 (強化週間) ③ 2月3日～2月8日の期間中のいずれか1日
対 象	全校児童と教職員
指導場面	給食の時間、学級活動、家庭科、委員会活動
指 導 者	学級担任、給食主任、栄養教諭
具 体 的 な 内 容	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で給食時間中の指導が難しいため、6月より栄養教諭が毎日の給食のひとくちメモをクロームブックに配信し、その資料をもとに学級担任が話をするなどの指導を行った。</li> <li>・給食委員会が毎日行っているお昼の放送において、献立の紹介だけでなく、全国各地の郷土料理の紹介をする日も取り入れた。また、食べ物新聞や食べ物クイズを作成し、食育掲示板に掲示した (年4回)。</li> <li>・「こぴっとなんでも食べるじゃん週間」を実施し、全校児童が苦手な食べ物もがんばって食べようカードに取り組んだ。</li> <li>・児童がタブレットを家に持ち帰り、親子で給食の話をする「話食」を実施した。</li> </ul>	
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食のひとくちメモをクロームブックで配信したことで、栄養教諭が不在の時でも担任が食指導を行うことができ、学校全体で食教育を充実させることができた。</li> <li>・給食委員会のお昼の放送や食育新聞などは、児童の食への興味・関心を高めた。</li> <li>・「こぴっとなんでもたべるじゃん」週間では、クラスみんなで励ましたり、褒めたりして、苦手な食べ物でもチャレンジする児童や給食を食べきれぬ児童の割合が増加した。</li> <li>・今年度初めて行った「話食の日」では、「親子で楽しく会話ができた」「親が知らなかったことを子どもから教わった」など、保護者から大きな反響があった。家族のコミュニケーションが増え、家庭での食の意識の高まりに繋がった。</li> </ul>
今後の課題	指導直後は意識が高まるが、今後も継続していくための工夫が必要である。日々の食教育は家庭が中心となって担うものであるため、家庭の意識が高まるような啓発活動を今後も続けていく必要がある。

(様式1 計画書)

### 令和4年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	甲府市立池田小学校	校 長 名	樋川 君子
-------	-----------	-------	-------

児童生徒の課題

<ul style="list-style-type: none"><li>・好き嫌いなく食べることが苦手な児童がいる。</li><li>・他の食材に比べて、野菜の残菜量が多い。</li><li>・家庭の状況・環境により、食の好みや食べる量、速さの個人差が大きい。</li></ul>
--

実 践 名	食べ物の名前や栄養を知り、進んで食べよう。
目 標	給食委員会が「給食で使われている食べ物」について知らせ、全校児童の進んで食べようとする意識を育てる。
目標指標と数値	委員会のある月に、昼のテレビ放送で池田小学校独自の食材紹介を放送する。 給食に出てくる食材を知り、進んで食べようとする児童を増やす
実施予定日 ・実施予定期間	テレビ放送での紹介は1学期から。委員会が取材を行うのは2学期・3学期。
対 象	給食委員会児童・全校児童
指導場面	委員会の時間・給食の時間
指 導 者	全教職員

#### 具 体 的 な 内 容

<ul style="list-style-type: none"><li>・献立の内容、使われている食材の栄養について、給食委員会の児童が給食時に校内テレビ放送で紹介をする。</li><li>・旬の食材を取り上げ、その栄養や地産地消について給食委員会児童が昼の放送で紹介する。学級担任の指導から、食材への理解を深める。</li><li>・給食週間の取り組みにおいては、昼の放送で紹介してきた食材について掲示物にまとめる。全校児童の「振り返る機会」を用意する。</li></ul>
--

評価方法	常時活動として、伝える側の日々の成長を認め、励ます。学級を訪問し、食に関する反応を見聞きし、改善点を認める。
------	--

(作成者名 秋山一彦 校務分掌等 給食主任 )

## 令和4年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	甲府市立池田小学校	校 長 名	樋川 君子
-------	-----------	-------	-------

実 践 名	食べ物の名前や栄養を知り、進んで食べよう。
目 標	給食委員会が「給食で使われている食べ物」について知らせ、全校児童の進んで食べようとする意識を育てる。
目標指標・数値	委員会のある月に、昼のテレビ放送で池田小学校独自の食材紹介を放送する。給食に出てくる食材を知り、進んで食べようとする児童を増やす。
実践後の数値 (評価方法)	常時活動として、伝える側の日々の成長を認め、励ました。1学期のテレビ放送、2学期以降の校内放送と、伝える技能が高まった。学級で、食材に関する話題が増えた。
実施日 ・実施期間	テレビ放送での紹介は1学期から。委員会が原稿を考えたり、放送を行ったりするのは2学期・3学期。3学期の給食週間時には、担当日の食材を扱った。
対 象	給食委員会児童・全校児童
指導場面	委員会の時間・給食の時間
指 導 者	全教職員
具 体 的 な 内 容	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・献立の内容、使われている食材の栄養について、給食委員会の児童が給食時に校内テレビ放送で紹介をした。2学期以降はテレビ放送ができなくなったので、校内放送で伝えた。</li> <li>・旬の食材を取り上げ、その栄養や地産地消について給食委員会児童が昼の放送で紹介した。学級担任の指導から、食材への理解を深めた。</li> <li>・3学期の給食週間時の取り組みでは、昼の放送で「きれいなものにチャレンジ」に取り組んだ。5日間の中で、担当日の食材の内容を見て、「好き嫌いなく食べるのには、この方法がお勧めです。」と児童が原稿を考えた。主人公を池田小学校に通う池田たろう君と設定し、残さず食べたことで起こる「いいこと」に気づくという構成である。児童総会の意見の中にも「たろう君のように、好き嫌いなく食べてみようと思った。」という発表があった。調理員さんへの感謝を込めて、栄養教諭が学級訪問をして現物を提示したり、話をしたりしたことも有効であった。</li> </ul>	
成 果	テレビ放送で使用する「食材のサンプル」も充実し、児童の関心を引くことができた。給食を含め「食べること」の大切さが伝わるように、委員会児童も活動した。学期末には「配膳台のクリーニング」に取り組み、全校にしっかり食べる呼びかけを実践した。
今後の課題	来年度は、テレビ放送に戻り視覚的にも伝えることが望まれる。現状に合った方法で調理員さん方の紹介も必要である。委員会児童が進んで呼びかけをする活動が中心であったのだが、今後の感染予防対応によっては、一層拡大していけると感じている。

( 作成者名 秋山一彦 校務分掌等 給食主任 )

(様式1 計画書)

### 令和4年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学校名	甲府市立城南中学校	校長名	内藤好文
-----	-----------	-----	------

児童生徒の課題

<p>授業中やテスト中に鉛筆（シャープペン）を正しく持つことができない生徒が目につく。鉛筆が持てないと言うことは、箸も正しく持てないのではないかと予想される。</p> <p>そこで、給食委員会で箸が正しく持てるかを調査し、正しく持てない生徒には箸の持ち方を練習してもらおうと考えた。</p>
---

実践名	箸で上手につまめますか？
目標	箸で給食に出た小さな物（豆類やとうもろこしの粒など）をつまんで口に運んで食べよう。
目標指標と数値	小さな物を箸でつまんで口まで運べる生徒の割合を90%以上にする。
実施予定日 ・実施予定期間	7月：事前調査 9月：調査結果の分析と取り組み内容の検討 10～12月：正しい箸の持ち方指導（内容は委員会で検討） 1月：事後調査
対象	全校生徒
指導場面	給食委員会および給食時
指導者	給食委員会担当教師・給食委員・担任
具体的な内容	
<p>7月5日：事前調査（かぼちゃの揚げそばろあんかけに入っている枝豆を箸でつまんで口に運べるかを調べる。）</p> <p>結果：1回目で成功＝96%・2回目で成功2.5%・2回とも失敗＝1.5%</p> <p>枝豆は大きいので成功率が高かった。9月に大豆かとうもろこしで再調査をする。</p> <p>9月：再調査→分析と取り組み内容検討（ポスター、講習会、個別に指導して練習など）</p> <p>10～12月：取り組み内容を決定し、給食委員会で実践</p> <p>1月：取り組みの成果を調べるために9月と同じ物で再調査を実施する。</p>	
評価方法	9月に実施する調査で1回目で成功する生徒の割合が90%未満だった場合は、2月で90%以上にする。9月も90%以上だった場合は、2月でその数値をさらに上げる。

(作成者名 成嶋久代

校務分掌等 給食主任 )

## 令和4年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	甲 府 市 立 城 南 中 学 校	校 長 名	内 藤 好 文
実 践 名	箸で上手につまめますか？		
目 標	箸で、給食にでた小さな物（豆類やとうもろこしの粒など）をつまんで口に運んで食べよう。		
目標指標・数値	小さな物を箸でつまんで口まで運べる生徒の割合を90%以上にする		
実践後の数値 (評価方法)	7月：1回目で成功96%，2回目で成功2.5%，2回とも失敗1.5% 9月：1回目で成功98.8%，2回目で成功0.8%，2回とも失敗0.3% 12月：1回目で成功99.1%，2回目で成功0.6%，2回とも失敗0.3%		
実施日 ・実施期間	1回目調査：7月5日 2回目調査：9月1日 3回目調査：12月23日 箸を持って10回動かす取り組み：12月19日～23日の給食開始時		
対 象	全校生徒		
指導場面	給食委員会および給食時		
指 導 者	給食委員会担当教師・給食委員・担任		
具 体 的 な 内 容			
<p>7月に事前調査で給食に出たそばろあんかけに入っていた枝豆を箸でつまんで口に運べるかを調べたが、予想に反して成功率が高かった。そこで、9月にはサラダに入っているとうもろこしの粒をつまんで口に運べるかを再調査した。しかし、7月よりさらに成功率が上がった。そこで、11月24日の和食の日に合わせて、『箸の持ち方』だけでなく『箸のマナー』も紹介するポスターを作成して、各クラスに掲示し、箸への関心をもってもらおうと試みた。</p> <p>12月には、ポスターの『箸の正しい持ち方』を参考にして、各クラスの給食委員が箸を10回動かす取り組みを5日間実施した後、再度、ソテーに入っていたとうもろこしを箸でつまんで口に運べるかを調査した。その結果、9月に1回では成功しなかった1年生の数人が1回で成功することができた。</p>			
成 果	「箸が正しく持てない＝小さい物をつかめない」と予想して、調査を行ったが、予想に反して小さい物をつかめない生徒は少なかった。数値的な成果はあまりなかったが、箸への関心は高められたのではないかと思う。		
今後の課題	箸を上手に使いこなすことだけでなく、ポスターで紹介した箸のマナーにも関心をもってもらい、和食の良さや奥深さをアピールできる生徒を育成していきたい。		

(様式1 計画書)

## 令和4年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	甲斐市立竜王中学校	校 長 名	野本 眞二
-------	-----------	-------	-------

児童生徒の課題

本校は普段の給食残量が比較的多い学年・学級があり、偏食や少食傾向、そして食に対して興味関心の薄い生徒が多い様子がみられる。ICT を活用しての生徒の実態把握で課題を捉え、教職員全体で食に関する指導を行い、生徒が自分たちの食生活に関心をもつ機会を多く設定していきたいと考えている。

実 践 名	『ICT を活用した食生活実態把握と食育～身近な食を考えよう～』
目 標	・ ICT を活用した全校食生活アンケートの実施と給食指導を行う。 ・ 体験活動や給食指導を通し食への興味・関心の幅を広げ、喫食率を上げる。
目標指標と数値	【活動指標】・ ICT を活用した給食指導：R3年度0回→R4年度1学期中に各学級で1回 【成果指標】・ googleform 食生活に関するアンケート(抜粋)・「食文化に興味がありますか？」 ある・・・43.3%， ない・・・57.7% ある、と答えた生徒のうち、 ・ 山梨伝統の食事(32.7%)・日本のいろいろな地域の食事(48.1%) ・ 世界の料理(67.3%)・食品の栄養(23.1%) その他(1.8%)であった。 食文化への興味の割合を43.3%→50%へ+6.7%増加を目標とする。 【残量調査】5,6月残食率平均2.7kg→2.0kgへ残食率減少を目標とする。
実施予定日 ・実施予定期間	令和4年6月～令和5年2月
対 象	全校生徒 1学年 2学年 3学年 計386名
指導場面	特別活動,自立活動(特支),給食時間
指 導 者	学級担任,学年職員,学習支援員,外部講師,栄養教諭
具 体 的 な 内 容	
◇ICT を活用した生徒の実態把握と給食指導 ・全学年：【特別活動】：6月3日～30日にかけて Googleform で作成した食生活アンケートを実施。一人一台端末を用いて、学級活動の時間に各学年のクラスルーム内に設定されたアンケートに回答。 ・タブレットと大型モニターを使用し、PPT 資料で食に関する指導を行う。事後は指導資料を配付し、学級で内容の振り返りを行う。 1学年：【特別活動】『成長期の食事について考えよう！』5月20～31日 2学年：【特別活動】『よくかんで食べることの効果について』6月3～9日 3学年：【特別活動】『食べ物はどこからくるの？～SDGsを考える～』7月13～20日 ◇体験活動を通して食文化を知る 特別支援学級：【自立活動】山梨の風土に根付いたみそづくりを通し、自立の為の食体験の機会を持つ。 ・味噌作り事前授業『みそについて知ろう！』(6月23日)一人一台端末で調べ学習を行う。 ・味噌作り実習『甲州味噌をつくろう！』：(6月24日)	
評価方法	事前事後のアンケート結果の比較,授業観察やワークシートからの見取り

(作成者名 守屋愛子

校務分掌等 給食主任 )



## 令和4年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	甲斐市立竜王中学校	校 長 名	野本 眞二
実 践 名	『ICTを活用した食生活実態把握と食育～身近な食を考えよう～』		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用した全校食生活アンケートの実施と給食指導を行う。</li> <li>体験活動や給食指導を通し食への興味・関心の幅を広げ、喫食率を上げる。</li> </ul>		
目標指標・数値	<p>【活動指標】・ICTを活用した給食指導：R3年度0回→R4年度1学期中に各学級で1回</p> <p>【成果指標】・googleform 食生活に関するアンケート（抜粋）・「食文化に興味がありますか？」ある…43.3%，ない…57.7% ある，と答えた生徒のうち、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>山梨伝統の食事（32.7%）・日本のいろいろな地域の食事（48.1%）</li> <li>世界の料理（67.3%）・食品の栄養（23.1%）その他（1.8%）であった。</li> </ul> <p>食文化への興味の割合を43.3%→50%へ+6.7%増加を目標とする。</p> <p>【残量調査】5，6月残食率平均2.7%→2.0%へ残食率減少を目標とする。</p>		
実践後の数値 (評価方法)	<p>【活動指標】・ICTを活用した給食指導：R4年度1学期中に各学級で1回実施。</p> <p>【成果指標】・googleform 食生活に関するアンケート※年度末に実施予定</p> <p>【残量調査】5，6月残食率平均2.7%→7月～1月残食率平均2.4%に減少。(R3:3.1%/年)</p>		
実施日・実施期間	令和4年4月～令和5年1月		
対 象	全校生徒 1学年 2学年 3学年 計387名		
指導場面	総合的な学習の時間，道徳，特別活動，自立活動（特支），給食時間		
指 導 者	学級担任，学年職員，学習支援員，外部講師，栄養教諭		
具 体 的 な 内 容			
<p>◇ICTを活用した生徒の実態把握と給食指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全学年：【特別活動】：各学級の学活等の時間を利用して6月3日～30日の期間内にGoogleformで作成した食生活アンケートを実施。一人一台端末を用いて，各学年のクラスルーム内に設定されたアンケートに回答した。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットと大型モニターを使用し，PPT資料で食に関する指導を行った。事後は指導資料を配付し，学級で内容の振り返りを行った。</li> </ul> <p>1学年：【特別活動】『成長期の食事について考えよう！』 5月20～31日実施</p> <p>2学年：【特別活動】『よくかんで食べることの効果について』6月3～9日実施</p> <p>3学年：【特別活動】『受験期の心とからだの変化～受験期の食事について～』1月31日実施※感染症対策の為紙面配布での指導</p>  			
<p>◇体験活動を通して食文化を知る</p> <p>特別支援学級：【自立活動】山梨の風土に根付いたみそづくりを通し，自立の為の食体験の機会を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>味噌作り事前授業『みそについて知ろう！』（6月23日実施）ワークシートと一人一台端末を用いて調べ学習を行った。</li> <li>味噌作り実習『甲州味噌をつくらう！』（6月24日実施）</li> </ul>  			
成 果	感染症対策や学校行事等のため，当初予定した取り組みの延期や変更が必要となったが，一人一台端末を用いての全校食育アンケートの実施や，特別活動や自立活動での体験活動等，ICTを活用して食に触れる機会をつくることのできた。		
今後の課題	残量調査結果については思うような大きな変化にはならなかったが，昨年度と比較して0.7%の減少，そして今年度も少しずつではあるが年度当初に比べ残量の減少がみえてきた。食への興味・関心を高めるための献立の工夫や地場産物の活用，また今年度行った生徒会活動による取り組み等を継続しつつ，生徒の実態に合わせた手立てを考えていく必要がある。		

(様式1 計画書)

## 令和4年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	昭和町立 押原中学校	校 長 名	柴 茂 生
-------	------------	-------	-------

児童生徒の課題

生徒は、給食の時間をとても楽しみにしている。しかし、好き嫌いがあり、偏食気味の生徒も少なくない。今年度は生徒会活動の柱にSDG sの視点を設定し、各委員会でアプローチする。給食委員会の活動として、これまでも残菜0運動等取り組んできたが、取り組みが終わると取組前と同じ状況に戻ってしまう実態がある。そこで家庭科と栄養教諭、また、委員会との連携により、食育「お弁当の日」を設定し、生徒の食に対する関心を高め、自身の健康について「食」を通して考え、判断し実践できる力を育むことをねらいとして実践していきたい。

実 践 名	お弁当づくり	
目 標	○自分の食生活を見つめなおし、望ましい食事のとり方を理解する。 ○環境や資源に配慮した食生活を実践し継続する力を高める。	
目標指標と数値	① 段階的な調理内容の指標を提示し、発展的に調理のレベルアップを図る。 ② 望ましい食事のとり方を考えて食べる生徒を増やす	
実施予定日 実施予定期間	令和4年6月20日(月)	
対 象	全校生徒	
指導場面	家庭科、SDG sの取り組み時	
指 導 者	家庭科教諭・栄養教諭・保護者	
具 体 的 な 内 容		
・次のような目標とするレベルに応じ、授業と家庭とで相互に連携しながら実践する。		
チャレンジ1	・お弁当の中身を考える(保護者に伝える) ・お弁当箱にお弁当をつめる	←1,2年生はここからスタートです
チャレンジ2	・お弁当の中身を考える(保護者に伝える) ・簡単な手伝いをする(卵を割る、野菜を洗うなど) ・お弁当箱にお弁当をつめる	
チャレンジ3	・お弁当の中身を考える(授業) ・自分の力で1品以上作る ・お弁当箱にお弁当をつめる	←3年生の自信がない人はここからスタート
チャレンジ4	・お弁当の中身を考える(授業) ・自分の力でお弁当全部を作る☆ ・お弁当箱にお弁当をつめる	←3年生の自信がある人はここからスタート
チャレンジ5	・お弁当の中身を考える(授業) ・自分の力でお弁当全部を作る☆・お弁当箱にお弁当をつめる ・お弁当の材料を購入するまたは冷蔵庫等から準備する	
・実施後は料理の写真を添え、メニュー名、主食主菜、副菜ごと材料、作り方等を整理してレポートを作成する。優秀なレポートは学園祭で給食委員会が展示用に掲示する。		
・栄養バランス、料理の完成度の高さ等、家庭科教諭と栄養教諭が学校給食に採用する調理を定期的に決めて給食の献立に盛り込む。		
評価方法	① ② お弁当計画と振り返り・事後アンケート等	

( 実践者 榛原砂穂理(家庭科教諭) 実践報告作成者 志村秀洋 校務分掌等 給食主任 )

## 令和4年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	昭和町立 押原中学校	校 長 名	柴 茂 生
-------	------------	-------	-------

実 践 名	お弁当づくり																	
目 標	○自分の食生活を見つめなおし、望ましい食事のとり方を理解する。 ○環境や資源に配慮した食生活を実践し継続する力を高める。																	
目標指標・数値	① 段階的な調理内容の指標を提示し、発展的に調理のレベルアップを図る。 ② 望ましい食事のとり方を考えて食べる生徒を増やす																	
実践後の数値 (評価方法)	①② お弁当計画と振り返り・事後アンケート等																	
実施日・実施期間	令和4年6月20日(月)																	
対 象	全校生徒																	
指導場面	家庭科授業・家庭内・SDGsの取り組み時																	
指 導 者	家庭科教諭・栄養教諭・保護者																	
具 体 的 な 内 容																		
<p>・次のような目標とするレベルに応じ、授業と家庭とで相互に連携し実践する。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%;">チャレンジ1</td> <td style="width: 60%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お弁当の中身を考える(保護者に伝える)</li> <li>・お弁当箱にお弁当をつめる</li> </ul> </td> <td style="width: 25%;">←1,2年生はここからスタートです</td> </tr> <tr> <td>チャレンジ2</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お弁当の中身を考える(保護者に伝える)</li> <li>・簡単な手伝いをする(卵を割る、野菜を洗うなど)</li> <li>・お弁当箱にお弁当をつめる</li> </ul> </td> <td></td> </tr> <tr> <td>チャレンジ3</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お弁当の中身を考える(授業)</li> <li>・自分の力で1品以上作る</li> <li>・お弁当箱にお弁当をつめる</li> </ul> </td> <td>←3年生の自信がない人はここからスタート</td> </tr> <tr> <td>チャレンジ4</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お弁当の中身を考える(授業)</li> <li>・自分の力でお弁当全部を作る☆</li> <li>・お弁当箱にお弁当をつめる</li> </ul> </td> <td>←3年生の自信がある人はここからスタート</td> </tr> <tr> <td>チャレンジ5</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お弁当の中身を考える(授業)</li> <li>・自分の力でお弁当全部を作る☆・お弁当箱にお弁当をつめる</li> <li>・お弁当の材料を購入するまたは冷蔵庫等から準備する</li> </ul> </td> <td></td> </tr> </table> <p>・実施後は料理の写真を添え、メニュー名、主食主菜、副菜ごと材料、作り方等を整理してレポートを作成した。優秀なレポートは学園祭で給食委員会が展示用に掲示した。</p> <p>・栄養バランス、料理の完成度等、いくつかの観点から、家庭科教諭と栄養教諭が中心となって学校給食に出す献立に盛り込む等の実践を行った。</p>				チャレンジ1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お弁当の中身を考える(保護者に伝える)</li> <li>・お弁当箱にお弁当をつめる</li> </ul>	←1,2年生はここからスタートです	チャレンジ2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お弁当の中身を考える(保護者に伝える)</li> <li>・簡単な手伝いをする(卵を割る、野菜を洗うなど)</li> <li>・お弁当箱にお弁当をつめる</li> </ul>		チャレンジ3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お弁当の中身を考える(授業)</li> <li>・自分の力で1品以上作る</li> <li>・お弁当箱にお弁当をつめる</li> </ul>	←3年生の自信がない人はここからスタート	チャレンジ4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お弁当の中身を考える(授業)</li> <li>・自分の力でお弁当全部を作る☆</li> <li>・お弁当箱にお弁当をつめる</li> </ul>	←3年生の自信がある人はここからスタート	チャレンジ5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お弁当の中身を考える(授業)</li> <li>・自分の力でお弁当全部を作る☆・お弁当箱にお弁当をつめる</li> <li>・お弁当の材料を購入するまたは冷蔵庫等から準備する</li> </ul>	
チャレンジ1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お弁当の中身を考える(保護者に伝える)</li> <li>・お弁当箱にお弁当をつめる</li> </ul>	←1,2年生はここからスタートです																
チャレンジ2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お弁当の中身を考える(保護者に伝える)</li> <li>・簡単な手伝いをする(卵を割る、野菜を洗うなど)</li> <li>・お弁当箱にお弁当をつめる</li> </ul>																	
チャレンジ3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お弁当の中身を考える(授業)</li> <li>・自分の力で1品以上作る</li> <li>・お弁当箱にお弁当をつめる</li> </ul>	←3年生の自信がない人はここからスタート																
チャレンジ4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お弁当の中身を考える(授業)</li> <li>・自分の力でお弁当全部を作る☆</li> <li>・お弁当箱にお弁当をつめる</li> </ul>	←3年生の自信がある人はここからスタート																
チャレンジ5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お弁当の中身を考える(授業)</li> <li>・自分の力でお弁当全部を作る☆・お弁当箱にお弁当をつめる</li> <li>・お弁当の材料を購入するまたは冷蔵庫等から準備する</li> </ul>																	
成 果	<p>実施後のアンケートには、「食生活や健康への関心の高まり、調理技能の習得等」に対し96%の生徒が達成できたと答えていた。また、家族と触れ合う機会がふえた点、お弁当作りの大変さを感じたこと、家族への感謝の気持ちが記述してあった。また、SDGsを意識した様子が伺える記述もあった。</p>																	
今後の課題	<p>全学年で実施したことで、それぞれの発達段階や技能に応じた生徒の変容も見られた取り組みであった。いくつかのメニューは実際に学校給食で献立として取り上げて頂いた。これらの点が一時的な取り組みに終わることなく、その他の教育活動の中でも食育に関するカリキュラム・マネジメントを意識して食育を実践していきたい。継続することで、食育がめざす生徒たちの資質・能力の向上につながるものと思われる。</p>																	

(様式1 計画書)

## 令和4年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	山梨市立加納岩小学校	校 長 名	中村 雅彦
-------	------------	-------	-------

### 児童生徒の課題

家庭で食べ慣れないため、和食の煮物や魚料理、混ぜご飯などを苦手とする児童が多い。また、食に関する正しい知識が十分ではないため、肉料理や麺類など好きな献立はよく食べ、苦手な献立や野菜を多く使用した日は残したり手を付けなかったりという傾向がある。

好き嫌いしないで何でも食べるという気持ちを育むためにも、いろいろな場面で少しずつ食育に触れることが大切だと考えられる。

実 践 名	しっかり食べよう、栄養満点の給食！
目 標	発達段階に合わせた食に関する指導を様々な場面で行い、児童の食習慣や食に関する意識の改善を促す。
目標指標と数値	年間指導計画に位置付けられた食に関する指導・・・3回 給食委員会による啓発活動・・・2回
実施予定日 ・実施予定期間	年間指導計画に位置付けられた食に関する指導 ・・・9月（2年生）/10月（3年生）/11月（5年生） 給食委員会による啓発活動 ・・・1学期と2学期に1回ずつ
対 象	年間指導計画に位置付けられた食に関する指導・・・235年生 給食委員会による啓発活動・・・全校児童
指導場面	教科や学級活動・給食委員会活動
指 導 者	栄養教諭・給食主任・学級担任
具 体 的 な 内 容	
【年間指導計画に位置付けられた食に関する指導】 2年生 学級活動「バランスよく食べよう」・・・赤黄緑の栄養バランス 3年生 社会科 「給食センターの仕事」・・・感謝して食べよう 5年生 家庭科 「食べて元気に」・・・五大栄養素とその働き 【給食委員会による啓発活動】 1学期・・・給食クイズ                      2学期・・・感謝して食べようの動画作成	
評価方法	・給食時間の児童の様子や残食 ・授業の感想やワークシートからの見取り

(作成者名：小林由紀子/校務分掌等：栄養教諭)

## 令和4年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	山梨市立加納岩小学校	校 長 名	中村 雅彦
-------	------------	-------	-------

実 践 名	しっかり食べよう、栄養満点の給食！
目 標	発達段階に合わせた食に関する指導を様々な場面でを行い、児童の食習慣や食に関する意識の改善を促す。
目標指標・数値	年間指導計画に位置付けられた食に関する指導・・・3回 給食委員会による啓発活動・・・2回
実践後の数値 (評価方法)	年間指導計画に位置付けられた食に関する指導・・・3回実施した 給食委員会による啓発活動・・・3回実施した
実施日・実施期間	令和4年6月～令和5年2月
対 象	年間指導計画に位置付けられた食に関する指導・・・5年生 給食委員会による啓発活動・・・全校児童
指導場面	教科や学級活動・給食委員会活動
指 導 者	栄養教諭・給食主任・学級担任
具 体 的 な 内 容	
<p><b>【年間指導計画に位置付けられた食に関する指導】</b></p> <p>5年生の家庭科・社会科・総合の時間に、学級担任と栄養教諭がT・Tで授業を行った。家庭科では、五大栄養素とその働きについて学校給食を題材にして学習した。社会科は未来の食糧生産の単元で、地域の農産物を地産地消と関連付けながら学習した。総合の時間は米作りについて、お米の栄養や精白までの工程などを専門的立場から説明し、児童と一緒に作業をした。</p> <p><b>【給食委員会による啓発活動】</b></p> <p>1学期は「残食をなくそう」のテーマでポスターを作成し掲示した。2学期は給食の片付け点検を行い、その結果を動画で発表した。3学期は「食品ロス」のテーマで動画を作成し発表した。</p>	
成 果	<p>5年生の年間指導計画にそって、栄養教諭は家庭科・社会科・総合の時間と様々な場面で計画的に専門的立場から関わることができた。特に家庭科においては5年生がスタートの学年であるため、学級担任と専門家がT・Tで取り組むことで教科への興味関心が高まったと考えられる。栄養バランスを意識した食事のありかたを考える良い機会になった。単年度でみると1つの学年にしか関わっていないように見えるが、毎年5年生に関わればいずれ全学年に及ぶ。本校ではこの食育活動が3年間続いているので、今後もこのようなスタイルを継続したい。</p> <p>給食委員会の取り組みのテーマや活動内容は例年と同じだが、点検結果の伝え方を動画にするなど方法を工夫した。その結果、課題が分かりやすく、その解決方法なども示されていたということで、残食量が減ったりゴミの片付け方が良くなったりと、全校で変容がみられた。</p>
今後の課題	行動の変容を一時的なものではなく、どう継続させるかが課題である。

(様式1 計画書)

### 令和4年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	甲州市立 神金小学校	校 長 名	矢花 和仁
-------	------------	-------	-------

#### 児童生徒の課題

給食時の残量の様子は、高学年はほぼ完食できているが、低学年は特に女子の食べる量が少なく残食することがある。昨年完食を目指して取り組んだが、食べる量を減らすことで完食できた。しかし、野菜嫌いはなかなか改善されていない。今年は、学年の実態に合わせて、健全な成長のために食品の栄養について理解して、バランスよく食事を取るように取り組みたいと思う。

実 践 名	食べ物の働きを知って、好き嫌いをしないで食べよう。
目 標	・食べ物の3つの働きを知って、バランスよく食べる。(低学年) ・食品の栄養について知り、好き嫌いしないで食べる。(中学年) ・元気な体に必要な食事について理解し、食事の取り方を身につける。(高学年)
目標指標と数値	・それぞれの学年で、実態に合わせたバランスのよい食事の学習を実施し、指導後とその後の取組について2回以上アンケートをとって検証する。
実施予定日 ・実施予定期間	9月～2月
対 象	全校児童
指導場面	朝の学習時間、給食の時間、総合的な学習の時間、学級活動、教科(家庭科・生活など)
指 導 者	学級担任、給食センター栄養士、市役所健康増進課の方
具 体 的 な 内 容	
① 食育指導・・・低学年「3つの食べ物について」学習(健康増進課の方) 中学年「食べ物の栄養について調べよう」(学級担任) 「すききらいをしないで食べよう」～甲州市食育ノート～(学級担任) 高学年「元気な体に必要な食事」～甲州市食育ノート～(学級担任)	
② 給食指導・・・給食センターの栄養士の訪問時に食に関する指導をしてもらう。 (月1～2回)	
③ 食育だより・・・食育に関するおたよりを月1回発行し、家庭への啓蒙を図る。	
④ 事後アンケート・・・取組の様子を見とり、指導する。	
評価方法	授業後の食育ノートからの見とり。 アンケートから、児童の意識の変容を見る。

(作成者名 小石澤淳子 校務分掌等 食育担当 )

## 令和4年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	甲州市立神金小学校	校 長 名	矢花 和仁
-------	-----------	-------	-------

実 践 名	食べ物の働きを知って、好き嫌いをしないで食べよう。
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食べ物の3つの働きを知って、バランスよく食べる。(低学年)</li> <li>・食品の栄養について知り、好き嫌いしないで食べる。(中学年)</li> <li>・元気な体に必要な食事について理解し食事の取り方を身につける。(高学年)</li> </ul>
目標指標・数値	それぞれの学年で、実態に合わせたバランスのよい食事の学習を実施し、指導後とその後の取り組みについて2回以上アンケートをとって検証する。
実践後の数値 (評価方法)	アンケートは2回実施。実施後のアンケートで、嫌いな物が給食に出たときどうするか項目に、食べないから少しでも食べるに数値が上がった。
実施日 ・実施期間	10月6日 食育指導(低学年) 7月6日の授業参観で発表(中学年) 11月16日 食育指導(高学年) 年間通じて指導
対 象	1年生～6年生 38名
指導場面	学級活動 業前の時間 給食の時間 総合的な学習の時間 教科(家庭科・生活科など)
指 導 者	学級担任 給食センター栄養士 市役所健康増進課の方 神金地区食生活改善委員
具 体 的 な 内 容	
<p>① 食育指導・・・低学年「3つの食べ物について」市の健康増進課から指導者を派遣し、食べ物の3つの働きについてと1回の食事の量を「塩山式手ばかり」を使って学習した。</p> <p>中学年・・・総合的な学習の時間で、嫌いな食べ物についてどんな栄養があり、効果があるのか調べて授業参観で発表し、保護者と一緒に学習した。また、甲州市食育ノートを使って「好き嫌いしないで食べよう」を学習し、食べ物3つの働きの学習をまとめた。</p> <p>高学年・・・神金地区食生活改善委員会の方に指導していただき、「塩山式手ばかり」を使って実際に栄養バランス満点の1食分の献立を作りながら学習し、食事の大切さを実感した。</p> <p>② 食育だより・・・食事に関するおたよりを発行。家庭への啓蒙も図った。</p> <p>③ 事後アンケートを実施し、取り組みの様子を見とり、指導に役立てた。</p> <p>④ 栄養士による、月に1～2度の給食指導。季節に合わせた話題を給食時に各学級で指導。</p>	
成 果	・好き嫌いで残したり、減らしたりしていた児童が、食べ物の3つの働きや自分の体にどれだけの量が必要なのかを知り、できるだけ残さずに食べることの大切さを、体験を通して学習することができた。
今後の課題	・外部指導の有効性から、今後も食育指導の手立てや資料を提供してもらい児童の食に対する関心を高めていきたい。また健康な体作りのために、学校だけでなく家庭にも食の大切さを理解してもらおう啓発活動に力を入れたい。

(作成者名 小石澤淳子 校務分掌等 給食主任 )

(様式1 計画書)

### 令和4年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	笛吹市立石和北小学校	校 長 名	野澤 初美
-------	------------	-------	-------

児童生徒の課題

<p>「給食のアンケート」結果</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○給食が届くまでに関わっている人の認識<ul style="list-style-type: none"><li>・3つ以上の職業を答えられた児童の割合・・・44.4%</li><li>・調理員を挙げた児童の割合・・・56.3% (作る人等調理員以外の表記も含む)</li><li>・無回答・・・5.6%</li></ul></li><li>○「いただきます」「ごちそうさま」を言う時の気持ち<ul style="list-style-type: none"><li>・合図・・・21.4%    感謝・・・67.4%    何も思わない・・・5.6%    その他・・・5.6%</li></ul></li><li>○苦手な食べ物が出た時<ul style="list-style-type: none"><li>・残す・・・7.1%    少しでも多く食べようとする・・・42.9%    全部食べる・・・50%</li></ul></li></ul> <p>給食が届くまでに多くの人々が関わっていることを理解できている児童が少ない。 食事の際、感謝の気持ちを込めてあいさつする児童が低学年の方が多い。</p>
---

実 践 名	感謝して食べよう
目 標	毎日の給食に多くの人に関わっていることに気付き、感謝して食べようとする気持ちをもつことができる。
目標指標と数値	・給食に関わる人の仕事を3つ以上答えられる児童 44.4%→60% ・調理員の存在を認識できている児童の割合 56.3%→80% ・食事の際、感謝の気持ちを込めてあいさつできる児童の割合 67.4%→75%
実施予定日 ・実施予定期間	令和4年度4月～1月末
対 象	全校児童
指導場面	給食時間    学級活動    朝の活動    給食だより
指 導 者	学級担任    栄養教諭    調理員
具 体 的 な 内 容	
<p><b>【食に関する指導年間計画に基づいた指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○学級活動1月「食について考える」<ul style="list-style-type: none"><li>・2年生「給食にたずさわる人たち」1単位で学級担任と栄養教諭のTTで指導</li></ul></li><li>○他教科との関連<ul style="list-style-type: none"><li>道徳：1年がっこうだいすき、あいさつのことば</li><li>2年いただきます</li><li>3年心のこもった給食</li></ul></li></ul> <p><b>【給食時の指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ICTを活用し、給食センターでの調理の様子を紹介する。</li><li>○調理員との交流</li></ul>	



**【給食センターとの連携】**

- 給食センター見学の手機を設定し、給食センターについての説明、調理作業を見学、給食を食べて調理員と交流等を行う。(2学期、3年生と6年生)
- 給食時に調理員を招聘し、仕事の説明や努力していることについて説明を受け、交流する。

**【意識化を図るための環境づくり】**

- 掲示資料…食育の掲示板に給食センターに関する資料を掲示する。

**【感謝の気持ちを届ける活動】**

- 学校給食週間に合わせ、調理員に感謝の気持ちを手紙にして届ける

**【給食だよりの工夫】**

- 年間を通して、毎月の給食だよりに「給食センター1枚の写真」を掲載し、調理作業の様子を知らせる。

評価方法	○1月末「給食のアンケート」を再度実施 ○給食時間の児童の様子から見とる
------	---

(作成者名 高尾 順子 校務分掌等 栄養教諭 )

## 令和4年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	笛吹市立石和北学校	校 長 名	野澤 初美
実 践 名	感謝して食べよう		
目 標	毎日の給食に多くの人に関わっていることに気付き、感謝して食べようとする気持ちをもつことができる。		
目標指標・数値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食に関わる人の仕事を3つ以上答えられる児童 44.4%→60%</li> <li>・調理員の存在を認識できている児童の割合 56.3%→80%</li> <li>・食事の際、感謝の気持ちを込めてあいさつできる児童の割合 67.4%→75%</li> </ul>		
実践後の数値 (評価方法)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食に関わる人の仕事を3つ以上答えられる児童：61.1%</li> <li>・調理員の存在を認識できている児童の割合：81.3%</li> <li>・食事の際、感謝の気持ちを込めてあいさつできる児童の割合：84%</li> </ul> (給食のアンケート7月、2月実施)		
実施日・実施期間	令和4年度4月～令和5年2月第2週		
対 象	全校児童		
指導場面	朝の活動 給食時間 学級活動 給食だより		
指 導 者	校長 教頭 学級担任 給食主任 栄養教諭 調理員		
具 体 的 な 内 容			
<p><b>【食に関する指導年間計画に基づいた指導】</b></p> <p>○学級活動1月「食について考える」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生「給食にたずさわる人たち」1単位で学級担任と栄養教諭のTTで指導</li> </ul> <p>○他教科との関連</p> <p>道徳：1年がっこうだいすき、あいさつのことば</p> <p style="padding-left: 40px;">2年いただきます</p> <p style="padding-left: 40px;">3年心のこもった給食</p> <p><b>【給食時の指導】</b></p> <p>○「いただきます」「ごちそうさま」の意味を学級担任や栄養教諭が指導</p> <p><b>【朝の活動での指導】</b></p> <p>○調理員を招聘した日の朝の活動でICTを活用し、給食センターでの調理の様子を紹介した。</p> <p><b>【給食センターとの連携】</b></p> <p>○給食センター見学の機会を設定し、給食センターについての説明、調理作業を見学、給食を食べて調理員と交流等を行った。(2年生：1月12日 3年生：2月7日 6年生：1月17日)</p> <p>○給食時に調理員を招聘し、仕事の説明や努力していることについて説明を受け、交流した。 (1年生：1月25日 4年生：1月27日 5年生：1月30日)</p> <p><b>【意識化を図るための環境づくり】</b></p> <p>○掲示資料…5月、食育の掲示板に給食センターに関する資料を掲示した。</p> <p><b>【感謝の気持ちを届ける活動】</b></p> <p>○調理員と交流後、全校児童が調理員に感謝の気持ちを手紙にして届けた。</p> <p><b>【給食だよりの工夫】</b></p> <p>○年間を通し、毎月の給食だよりに「給食センター1枚の写真」を掲載し、調理作業の様子を知らせた。</p>			

<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通した全校での取組により，3つの目標指数すべてを達成することができた。</li> <li>・給食がセンター方式のため，通常，交流がない調理員と給食センター見学や学校への招聘でふれあう機会を設定したところ，児童が調理員の存在を認識している児童の割合が増加した。交流することで，給食を調理する上での苦勞や調理員の思いを知ることができ，感謝の心を育てることにつながった。また，アンケート結果だけでなく，給食時に児童から「今日はどうやって調理員さんが作ったか」という質問が出たり，「調理員さんがせっかく作ってくれたんだから食べる」という言葉を聞いたりすることが増えた。</li> <li>・目標指数には掲げなかったが，苦手な食べ物に対して「食べない」という児童の割合が減少し，「少しでも多く食べようとする」児童が増加した。これは，栄養面を考えるだけでなく，感謝して食べるという意識もこの結果につながっていると考えられる。</li> <li>・給食センターの見学については，感染状況を考慮しながら，学校と給食センターの両方で感染予防対策を行いながら実施することができた。効果的であったので，2年生と6年生の教育課程に位置付け，継続して実施していく。</li> </ul>
<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回，交流を通して認識できた調理員の存在を児童が引き続き意識し，「感謝して食べる」ことができるよう，継続的に給食ができるまでの様子等を伝えていく必要がある。</li> <li>・今年度は，特に調理員に焦点を当てて取り組んだが，他の関わっている人々や食物についても知らせる機会を増やし，多くの人々や自然の恵みに感謝する心を育てていきたい。</li> </ul>

(作成者名 高尾順子 校務分掌等 栄養教諭 )

(様式1 計画書)

### 令和4年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	市川三郷町立上野小学校	校 長 名	保 坂 茂
-------	-------------	-------	-------

児童生徒の課題

日々の給食を通して食指導や年間計画に沿った指導を実施している。給食の残食も少なく、給食を楽しみにしている児童の姿が多く見られる。好き嫌いなく何でも食べることができる児童や、苦手なものもチャレンジしようとする意欲がある児童が多い。しかし、偏食や少食、食べることに時間がかかる児童など個に応じた対応が必要な児童もいるため、自らの健康について考え、進んでいろいろなものを食べようとする意欲を上げていく必要がある。

実 践 名	「食」を通して様々な発見をしよう！！
目 標	「食」への興味関心を高め、自ら進んでバランスよく食べようとする意欲を高める。
目標指標と数値	食に関わる絵本の読み聞かせの回数 学級担任による毎月の指導資料を活用した食指導の回数 給食時間における給食を教材とした指導の回数 地場産物の活用と指導の回数
実施予定日 ・実施予定期間	絵本の読み聞かせ（令和4年6月～令和5年3月の月1回） 学級担任による毎月の指導資料を活用した食指導の回数（令和4年4月～令和5年3月） 給食時間における給食を教材とした指導の回数（給食提供時） 地場産物の活用と指導の回数（給食提供時）
対 象	全校児童
指導場面	朝活動・給食時間・学級活動
指 導 者	本校教職員
具 体 的 な 内 容	
○食に関わる絵本の読み聞かせ ・朝活動の時間を利用し、月に1回実施      ・司書と連携し、絵本を精選、全校一斉に取り組む。 ・図書館に食育絵本コーナーを設置	
○学級担任による毎月の指導資料を活用した食指導 ・栄養教諭が毎月学年ごとの指導資料を配布      ・指導資料に基づき、学級担任が指導を実施	
○給食時間における給食を教材とした指導 ・栄養教諭が給食と連携した指導資料を配布      ・給食委員会による資料の放送 ・クラス巡回時に栄養教諭による指導の実施	
○地場産物の活用と指導回数 ・定期的に地域の有機農業を行っている生産者と連携をとり、給食の献立に反映 ・甘々娘の皮むき体験	
評価方法	・給食時間の巡回指導の中での見取りと学級担任による見取り ・残菜量と個々の児童の食べられる量の変容 ・読み聞かせや指導の実施回数

(作成者名 栄養教諭 遠藤裕子 校務分掌等 食教育主任 )

## 令和4年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	市川三郷町立上野小学校	校 長 名	保坂 茂
-------	-------------	-------	------

実 践 名	「食」を通して様々な発見をしよう！！
目 標	「食」への興味関心を高め、自ら進んでバランスよく食べようとする意欲を高める。
目標指標・数値	食に関わる絵本の読み聞かせの回数（月一回程度） 学級担任による毎月の指導資料を活用した食指導の回数（月1回） 給食時間における給食を教材とした指導の回数（月1～2回） 地場産物の活用と指導の回数（月1回程度）
実践後の数値 （評価方法）	食に関わる絵本の読み聞かせの回数・・・9回 学級担任による毎月の指導資料を活用した食指導の回数・・・12回 給食時間における給食を教材とした指導の回数・・・24回 地場産物の活用と指導の回数・・・12回
実施日 ・実施期間	・食育絵本の読み聞かせ（令和4年6月～令和5年3月の月1回） ・学級担任による月の指導資料を活用した食指導（令和4年4月～令和5年3月の月1回） ・給食時間における給食を教材とした指導（令和4年4月～令和5年3月の給食放送日） ・地場産物の活用と指導（地場産物を活用した献立提供日）
対 象	全校児童
指導場面	朝活動・給食時間・学級活動
指 導 者	本校教職員
具 体 的 な 内 容	
<input type="checkbox"/> 食に関わる絵本の読み聞かせについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝活動の時間に月1回、全校一斉に実施した。</li> <li>・司書と連携し、季節の行事食などに関係する内容で、発達段階に沿った絵本を精選した。</li> <li>・読み聞かせは、教務の職員がローテーションで各学年を担当した。</li> </ul> <input type="checkbox"/> 学級担任による月の指導資料を活用した食指導について <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養教諭が各月の指導目標に沿った学年ごとの指導資料を配付し、担任が指導を行った。</li> </ul> <input type="checkbox"/> 給食時間における給食を教材とした指導について <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養教諭が献立の意図を伝えるためのおたよりをクラスに一枚ずつ配付した。また、同時に給食委員会の児童が給食時間中の校内放送で、全校へ伝えた。</li> <li>・栄養教諭により、食材や望ましい食生活などに関する指導を行った。</li> </ul> <input type="checkbox"/> 地場産物の活用と指導について <ul style="list-style-type: none"> <li>・大塚にんじんや甘々娘（とうもろこし）、あけぼの大豆、ゆず、レインボーレッド等、市川三郷町や山梨県の特産物を使用した献立を取り入れた。さらに、児童には甘々娘（とうもろこし）の皮むき体験や、あけぼの大豆の枝豆のさや切り体験を実施した。</li> </ul>	

<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食に関わる絵本の読み聞かせは、管理職を含めて様々な立場の先生が各学年に入り、全校一斉に実施することができた。季節の行事に関わる内容の絵本を選定しているため、行事食への興味関心が高まり、給食で提供する行事食の効果も高めることができた。</li> <li>・とうもろこしの皮むきやあけぼの大豆のさや切りなどの体験活動を実施した。自宅で農作物を作る家庭が少なくなっている中、枝豆のさやに付いている虫に驚く児童がいたり、喜ぶ児童がいたり、五感を刺激する貴重な取り組みができた。</li> </ul>
<p>今後の課題</p>	<p>児童は給食を黙食で食べているため、問いかけることができなかつたり、児童の反応を見ることができなかつたりすることから、給食時間中の指導の難しさを感じる。また、なるべく短時間で指導できるような教具の作成や話のまとめ方などの工夫が必要である。</p>

(作成者名 遠藤 裕子 校務分掌等 栄養教諭・食教育主任 )

(様式1 計画書)

### 令和4年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	都留市立 宝小学校	校 長 名	小口 尚良
-------	-----------	-------	-------

#### 児童生徒の課題

宝小学校は、市内他地区に比べ3世帯同居の割合が高く、昔ながらの味に慣れている児童が多い。しかし、そのような中でも野菜が苦手、魚が苦手という様子もみられる。それぞれの学級によって抱える課題が異なるが、しっかりと食べる児童、食が細く食ベること自体に課題のある児童、好き嫌いがある児童、食ベるのに時間がかかる児童などが、各学級に混在している。給食の始めに食ベきれる量に調節して良いことになっており、食ベ残す児童は少ない。しかし、給食センターへ返す残菜量が多くなり、調節量に課題が見られる。食事の時のマナーについても、コロナ禍の中、おしゃべりはないものの、食ベる姿勢の悪さや箸の持ち方など、いくつかの課題を抱えている。

実 践 名	<ul style="list-style-type: none"><li>・食品のもつ栄養のはたらきについて理解しよう。</li><li>・いただいた食事を最後まで食べきろう。</li></ul>
目 標	<ul style="list-style-type: none"><li>・いただいた食事を感謝して最後まで食べよう。</li><li>・栄養のはたらきについて知り、好き嫌がなくバランスよく食ベることの大切さを理解しよう。</li><li>・栄養のバランスを考えて給食を作るのに関わってくれた人達に感謝して食べよう。</li></ul>
目標指標と数値	<ul style="list-style-type: none"><li>・バランスよく食ベることについての啓発ポスター制作、「夢の給食コンテスト」を行う。</li><li>・委員会による集会を行い、食事マナーの呼びかけを行う。</li><li>・食事を最後までいただく取り組みを行う。(第1学年)</li></ul>
実施予定日 ・実施予定期間	<ul style="list-style-type: none"><li>・給食委員会による集会：9月</li><li>・「ピカピカ！たべきったよ！」(完食の取り組み)(1～2学期)</li><li>・ポスター制作：1～2学期</li><li>・夢の給食コンテスト：1月</li><li>・栄養教諭による学校訪問、栄養指導(通年)</li></ul>
対 象	<ul style="list-style-type: none"><li>・栄養バランスについて：全校児童</li><li>・食事のマナーについて：全校対象</li><li>・完食の取り組み：第1学年</li><li>・栄養教諭による栄養指導：全校対象</li></ul>
指導場面	<ul style="list-style-type: none"><li>・朝の時間(8:30～45)、委員会活動、給食の時間、</li><li>・各学級の時間、総合的な学習の時間</li></ul>
指 導 者	給食主任(給食委員会) 第1学年担任、各学年担任
具 体 的 な 内 容	
○通年 ・栄養教諭による教室訪問、栄養指導	
○5月 ・給食委員会ポスター作成「バランス良く食べよう」	
○6月～7月 ・1年生「ピカピカ！たべきったよ！」笑顔で食べきった様子をお互いにたたえる(クラス内で写真を用いて発信する)。	
○9月 ・給食委員会主催ミニ集会「食事のマナー」	
○1月 ・給食委員会主催「夢の給食コンテスト」	
評価方法	実施状況の見取り 各クラスの状況把握 など

(作成者名 曾根 知江 校務分掌等 給食主任 )

### 令和4年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	都留市立宝小学校	校 長 名	小口 尚良
-------	----------	-------	-------

実 践 名	<ul style="list-style-type: none"><li>・食品の持つ栄養のはたらきについて理解しよう。</li><li>・いただいた食事を最後まで食べきろう。</li></ul>
目 標	<ul style="list-style-type: none"><li>・いただいた食事を感謝して最後まで食べよう。</li><li>・栄養のはたらきについて知り、好き嫌いなくバランス良く食べることの大切さを知ろう。</li><li>・栄養のバランスを考えて給食を作るのに関わってくれた人達に感謝して食べよう。</li></ul>
目標指標・数値	<ul style="list-style-type: none"><li>・バランスよく食べることについての啓発ポスターを制作。「夢の給食コンテスト」を行う。</li><li>・委員会による集会を行い、食事マナーについての呼びかけを行う。</li><li>・食事を最後までいただく取り組みを行う。(第1学年)</li></ul>
実践後の数値 (評価方法)	<ul style="list-style-type: none"><li>・夢の給食コンテスト応募作品の内容の確認。</li><li>・給食委員会での取り組みの前後での児童の変化について、各担任に聞き取り。</li><li>・第1学年は、保護者の反応について担任へ聞き取り。</li></ul>
実施日 ・実施期間	<ul style="list-style-type: none"><li>・給食委員会による集会：10月</li><li>・「ピカピカ！たべきったよ！」(完食の取り組み)(1～2学期)</li><li>・ポスター制作：1～2学期</li><li>・夢の給食コンテスト：1月</li><li>・給食センターのみなさんへの感謝のカード作り：2月</li><li>・栄養教諭による学校訪問、栄養指導(通年)</li></ul>
対 象	<ul style="list-style-type: none"><li>・栄養バランスについて：全校児童</li><li>・食事のマナーについて：全校対象</li><li>・完食の取り組み：第1学年</li><li>・栄養教諭による栄養指導：全校対象</li></ul>
指導場面	<ul style="list-style-type: none"><li>・朝の時間(8:30～45)、委員会活動、給食の時間</li><li>・各学級の時間、総合的な学習の時間</li></ul>
指 導 者	<ul style="list-style-type: none"><li>・給食主任(給食委員会)</li><li>・第1学年担任、各学年担任</li></ul>
具 体 的 な 内 容	
<ul style="list-style-type: none"><li>○通年<ul style="list-style-type: none"><li>・栄養教諭による教室訪問、栄養指導</li></ul></li><li>○5月<ul style="list-style-type: none"><li>・給食委員会ポスター作成「バランス良く食べよう」</li></ul></li><li>○6月～7月<ul style="list-style-type: none"><li>・1年生「ピカピカ！たべきったよ！」笑顔で食べきった様子をお互いにたたえる(クラス内で写真を用いて発信する)。</li></ul></li><li>○10月<ul style="list-style-type: none"><li>・給食委員会主催ミニ集会「食事のマナー」</li></ul></li><li>○1月<ul style="list-style-type: none"><li>・給食委員会主催「夢の給食コンテスト」</li></ul></li><li>○2月<ul style="list-style-type: none"><li>・給食委員会主催「給食センターのみなさんへ感謝の気持ちをおくろう」</li></ul></li></ul>	



<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食委員会によるミニ集会により、給食当番の身支度と食事のマナーについて取り上げた。給食委員が実際に身支度の様子と食事の様子（食事についてはまね）をしてみせることで、帽子に髪の毛をいれるなど、意識の向上の様子がみられた。</li> <li>・1年生では全部食べ切れた様子をひとりひとり撮影し、学年のお便りにのせて保護者に発信した。1年生は家族に褒められることがうれしくて完食率が格段に向上した。</li> <li>・児童の「夢の給食」を募集し、栄養バランスや彩り等を視点にコンテストを行った。児童は、自分の好みも入れながらよく栄養バランスを考えていた。また、他の児童の応募作品をみて認め合う良い雰囲気がうまれた。</li> <li>・給食センターのみなさんへの感謝のカードづくりを2月に行っている。(取組中)</li> <li>・栄養教諭による学校訪問は毎年行っていただいている。児童にとってよい啓発となっている。</li> </ul>
<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バランス良く食べる啓発ポスターについては、掲示当初は児童が意識した。しかし、慣れてしまうと意識が低下してしまうのが課題である。</li> </ul>

(作成者名 曾根 知江

校務分掌等 給食主任 )

(様式1 計画書)

### 令和4年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	上野原市立秋山中学校	校 長 名	山崎 明彦
-------	------------	-------	-------

#### 児童生徒の課題

本校は、何事にも一生懸命取り組み、元気で活発な生徒が多いが、調査の結果、就寝時間が深夜0時以降の生徒が数人おり生活習慣の乱れが課題である。食に関しては、朝食欠食率は低く給食の完食率も高いが、好き嫌いのある生徒が目立つ。コロナ禍の令和2年度から学校での調理実習の機会が減り、食に対する実践的な学習ができていないため、本校では保健委員会主催でレシピコンテストを行っている。毎年、生徒が課題や実態からテーマを決め取り組んでいるが、今年度は免疫力アップと腸活が期待できる「発酵食品を使ったレシピ」をテーマとした。食に直接触れることを通して色々な食材に目を向けてほしいと願い行う。

実 践 名	アイディアレシピコンテスト ～発酵食品を使ったレシピ～
目 標	食材の栄養素やバランスを意識し、テーマに沿ったレシピ作りに取り組むことができる。
目標指標と数値	全校生徒が1人1つ以上レシピを考案し、調理する
実施予定日 ・実施予定期間	7月(栄養指導)・8月(レシピ考案調理)・9月(掲示表彰)
対 象	全校生徒
指導場面	昼休み・学園祭
指 導 者	栄養教諭・養護教諭・生徒保健委員会
具 体 的 な 内 容	
○栄養教諭による栄養指導(7月) ・テーマの「発酵食品を使ったレシピ」について、発酵食品とは何か、レシピを考えるときに重要なことは何かなど具体的な栄養指導の機会を持つ	
○各自レシピ考案、調理(夏休み中) ・栄養教諭からの資料や各自調べたことを元に、夏休み中に1人1つ以上考え調理する ・専用用紙に写真や材料、作り方、工夫点などを記入する	
○掲示や投票を通してコンテスト実施(9月) ・夏休み明けに、各レシピを校内に掲示し、投票する ・学園祭にて投票多数だった3作品(最優秀賞、優秀賞、特別賞)を保健委員会で表彰する ・投票が多かったレシピは栄養教諭と給食の献立にできるか検討する	
評価方法	栄養バランスや食材の特徴を理解し、テーマに沿ったレシピ作りを意欲的に取り組んでいるか、まとめた内容や話を聞いた様子から確認する。

( 作成者名 上條いつ美 校務分掌等 給食主任 )

## 令和4年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	上野原市立秋山中学校	校 長 名	山崎 明彦
-------	------------	-------	-------

実 践 名	アイディアレシピコンテスト ～発酵食品を使ったレシピ～
目 標	栄養素や食材を意識し、テーマに沿ったレシピ作りに取り組むことができる。
目標指標・数値	全校生徒が1人1つ以上レシピを考案し、調理する。
実践後の数値 (評価方法)	・発酵食品を使ってレシピを作っているか ・調理内容が用紙にしっかり書いてあるか
実施日 ・実施期間	7月19日(栄養指導)・夏休み中(レシピ考案調理)・9月10日(表彰)
対 象	全校生徒
指導場面	昼休み・学園祭
指 導 者	栄養教諭・養護教諭・生徒保健委員会
具 体 的 な 内 容	
<p>○栄養教諭による食育指導(7月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発酵食品とは何か、レシピを考える際に大切なことは何かについて具体的な指導の実施</li> </ul> <p>○各自レシピ考案、調理(夏休み)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養教諭の話や各自調べたことを元に、夏休み中に1人1品以上考え調理</li> </ul> <p>○アイディアレシピコンテスト(9月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み明けに各レシピを校内に掲示、その後食べてみたいレシピに生徒と教師が投票</li> <li>・投票多数だった上位2品と栄養教諭選考による特別賞を学園祭にて保健委員より表彰</li> <li>・栄養教諭と相談し、特別賞は10月の給食で出してもらう</li> </ul>	
成 果	<p>事前の栄養教諭の食育指導で様々な発酵食品を学んだことで、納豆やチーズ、ヨーグルト、味噌、醤油、麴など様々な食材を活用できていた。レシピを考案する中で、味や見た目などを工夫し意欲的に調理している様子も見受けられた。家庭においても食の話題が出たようで、学校と家庭で連携しながら取り組めたのではないかと思う。また、掲示された他の生徒のレシピを見る中で、食べたい、作ってみたいなど互いに賞賛する場面も多くあり、生徒自身とても嬉しそうだった。食に対し前向きな意識付けができたと思う。</p>
今後の課題	<p>毎年この取り組みは保健委員会が主体となり、全校で意欲的に行っている。今後は本校の課題である「好き嫌いを減らすこと」と絡めながら、栄養教諭と連携し、取り組みを展開していきたい。</p>

( 作成者名 上條いつ美 校務分掌等 給食主任 )